

# びわこ学園だより

発行責任者 理事長 山崎 正策  
編集責任者 法人事務局 田處 浩吉  
印刷 近江印刷株式会社

## 目次

令和5年度創立記念講演報告	1P
令和5年度着任式	2P
Pick UP①	
滋賀県重症心身障害児者 ・医療的ケア児等支援センター開設	3P
令和5年度事業計画	4P~8P
令和5年度予算	9P
Pick UP②	
「天津市障害者自立支援協議会 「福祉の魅力発見プロジェクト」の紹介	10P~11P
協力ありがとう (R4年12月~R5年3月)	12P

## 令和5年度創立記念講演(創立60周年企画)報告

### 「最近の医療行政から見た障害福祉、医療、保健について」

講師 角野 文彦氏(滋賀県健康医療福祉部理事)



びわこ学園創立60周年を迎え、「この子らを世の光に」を継承しながら、「この子らとともに光輝く時代へ向けて」をテーマに、今年度の記念講演は「創立60周年記念企画」として公衆衛生行政に精通されておられる角野文彦氏(滋賀県健康医療福祉部理事・医師)に講師をお願いし、今後多くの方々と共に歩みを進めていく上で、びわこ学園が現在の事業を継続しながら今後求められる役割を一緒に考えていく機会となるよう企画しました。

角野先生には、「保健と福祉の連携」「滋賀県の小児在宅医療の取り組み」「地域包括支援システム」を柱にお話いただきましたが、中でも特に以下について強調されておられました。

**「医療を必要とするご本人への支援計画は、医療に偏った計画ではなく、福祉を踏まえた計画とすること」**

医療のニードがどんなに高くても、その人の生活全体を見たうえで「医療から福祉へつなぐような医療」が必要である。

**「現場感覚は現場に行くことで理解できること」**

現場の声は間違いない。直接ニードから事業へ繋がることから、現場で自由に議論された意見を是非伺いたい。個別に何うよりも組織的にまとめていただくことで具体的な事業により繋げやすい。

**【例】医療、福祉、行政等関係者が集って積極的な議論や意見交換を進めてきた任意の「ざっくばらん会」⇒滋賀県小児在宅医療体制整備事業(事務局:びわこ学園医療福祉センター草津)**



### 「連携」ではなく「融合」

地域包括ケアシステムとは、「地域のすべての人を対象に「自分らしく生活する場」であり、重症心身障害、医療的ケア児者を含めたまさにすべての「人」を対象とする。保健、医療、福祉を充実させていく上で、医療は地域包括ケアシステムの一部である。各役

割を超えて、それぞれの「のりしろをどれだけ広げ」繋がる中で進められるか。

びわこ学園がこの間滋賀県から受託している小児在宅医療体制整備事業をはじめ複数の事業は、まさに現場の声やつながりが事業となったものです。

講演の結びでは糸賀先生のことばである「自覚者は責任者」となり、気づいたことがあれば知らん顔せず、自分ではできなくても繋げていくことの大切さと、障害のある方がたの生活をゆたかにするのに「この子らを世の光に」は現在にも通じることを話されました。

昨年の遠藤氏の講演に続き糸賀先生の思想を受け継ぎ、岡崎先生が目指された「ともに生きる」社会の実現を更に具体化していくためのヒントを角野先生のご講演からいただいたように感じています。この場を借りて改めてお礼申し上げます。(法人事務局事業企画部)

記念講演の動画と講演資料については、「びわこ学園ホームページ」からご覧いただけます。



## 令和5年度 社会福祉法人びわこ学園着任式



今年度新任職員、山崎理事長・丸山新常務理事、  
各施設長・各新所長と記念撮影



### 宣誓

新任職員を代表して、誓いの言葉を述べさせていただきます。本日はお忙しい中、私たち新任職員のために、着任式を開催していただきありがとうございます。先程、理事長から心のこもった激励のお言葉をいただき、感激するとともに身の引き締まる思いです。

びわこ学園の職員の一員として、障がいのある方々の生活のサポートをさせていただけることこの上なく光栄に思います。それと同時に、人の命をお預かりすることの責任の重さを痛感しております。

私たちびわこ学園の職員は、障がいのある利用者さん一人ひとりの思いを汲みとることが大切です。

初代びわこ学園園長の岡崎先生は「熱願冷諦」という言葉を残され、現在もびわこ学園職員の心得となっております。熱願冷諦という言葉が表すように、私たち職員には二つのことが求められます。一つは障がいのある方々の気持ちに寄り添い、その力になりたいと願う熱い心をもつことです。もう一つは、物事をその場その場の感情だけで判断するのではなく、本質や状況を冷静に見極め、論理立てて考えることです。

本日、共に働く一員として私たちを迎え入れてくださったことへの大きな感謝を胸に、びわこ学園のために貢献できる人材となることができよう、熱願冷諦を心得として精一杯仕事に取り組み全力を尽くします。私たちは、人とのつながりを大切にし、周りの方々への感謝を決して忘れません。

まだまだ未熟なものではございますが、この決意をいつまでも忘れることなく、何事にも積極的に取り組み、努力して参ります。何卒、ご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

以上、新任職員を代表して、誓いの言葉とさせていただきます。

令和五年四月一日

新任職員代表 佐野 文亮

障害の重い人たちの生活、そしてこれからのびわこ学園を共に支える仲間として、本年度は26名の正規職員を迎えることができました。理事長から一人ひとりに辞令が手渡され、また、新任職員代表からは、上記の宣誓がありました。現在は、それぞれの部署で日々頑張っているところです。（法人事務局人財育成部）



Pick up! ①

## 「滋賀県重症心身障害児者・ 医療的ケア児等支援センターこあゆ」開設

こあゆコーディネーター 園田 千鶴



2021年に施行された“医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律”に基づき、滋賀県から事業を受託し、2023年4月「滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターこあゆ」をびわこ学園医療福祉センター草津の敷地内にある地域支援ステーションみなも内に開設しました。愛称は「こあゆ」です。「こあゆ」のように、県民の皆さまから愛されながら機動力を発揮する意味を含めています。当センターのスタッフは、口分田センター長、看護師コーディネーター（旧重心ケアマネジメント支援事業担当）、医療的ケア児等コーディネーター2人の4人体制です。

業務としては、滋賀県内に在住の重症心身障害児者及び医療的ケア児等とご家族が生活していく上での様々な困りごとや不安などを傾聴し、必要に応じて、お住まいの行政や医療機関、相談支援事業所、サービス事業所等との連携を基本としながら、困りごと等が解決に繋がることを目指してお手伝いをします。また、重症心身障害児者や医療的ケア児等やご家族だけでなく、実際に関わっている行政や相談支援事業所、もしくは医療機関やサービス提供事業所（保育機関や教育機関も含む）など、支援をしていく上での困りごとに対してもどのような支援が良いのか等を一緒に考えていきます。

そして、ワンストップ相談だけでなく、滋賀県重症心身障害児者及び医療的ケア児等コーディネーター養成研修、滋賀県喀痰吸引等第三号研修、滋賀

県重症心身障害児者及び医療的ケア児等に関する協議会の事務局も担っていきます。

他都道府県では、“医療的ケア児等支援センター”の通称が多い中、当センターは、“滋賀県重症心身障害児者”を名称に入れているのは、びわこ学園が重症心身障害児等の支援を礎にしており、とても大切にしてきたからです。

時代の流れとともに、本当に少しずつではありますが、重症心身障害児者や医療的ケア児者の社会資源（福祉サービス）も増加傾向にあります。それは、当事者やそのご家族を中心としながら、その方たちを支える人たちの努力でもあり、個別の課題発信、各圏域の自立支援協議会での協議や各市町の行政の方々のご協力等によって形創られてきたものだと思います。しかしながら、まだ「十分」とは言えません。福祉サービスの資源も不十分ですが、医療的ケア児者の通学保障の課題やご家族の就労を支えるための学童保育等の充実、訪問看護事業所の体制の拡がり（24時間、365日体制、自宅以外におけるケア）、高齢による身体状況変化に伴う住まいの場の確保（急性期医療機関退院後の住まいの場、介護保険事業所との

連携）など“必要とするしくみ”や“課題”はたくさんあります。このような課題は、ライフステージも分野も多岐にわたるため、当センターだけでは解決が難しいですが、地域の皆さまと協同しながら、“どんなに重い障害があっても暮らしやすい滋賀のまちづくり”の一躍を担っていきたくてお思いますので今後ともよろしく願いいたします。



## 令和5年度事業計画(概要)

詳細については、びわこ学園ホームページに掲載

令和5年度は、第3期中期計画（令和元年～令和5年）の最終年にあたります。前年度までの4年間においては、コロナ禍に見舞われた時期ではありましたが、両医療センターの病院基準の引き上げを実施し、安定運営を目指してまいりました。

しかし、事業の基盤となる人財確保については、この間も厳しい状況は続いています。状況を分析し、きめ細やかな対策を立てていきます。また、財政運営については病院基準の引き上げにより収入増は図られましたが、支出においては人件費の割合も増加し、またこの1年においては物価高の影響が大きく厳しい状況であります。令和6年度には医療と福祉のダブル改定が行われます。この令和5年度において内容が決定されることとなります。

引き続き、県をはじめ関係団体を通じ国への要望も進めてまいります。

今年は、びわこ学園の創立60周年を迎えます。60年という長い期間それぞれの社会情勢に合わせて重症心身障害児者の支援を展開してきましたが、その状況は今や大きく変わりつつあります。

60年という節目の年にあらためて、そのあゆみを後世につなげていくとともに令和6年度からの次期中期計画につなげていきたいと考えております。

これからのびわこ学園での障害児者支援の在り方を改めて考え、組織や経営・運営に活かし、また職員の確保や育成を十二分に図りながら、令和6年度から始まる新たな中期計画につなげていける年にしたいと考えています。

### I. 法人事務局

#### <重点項目>

- ①今年度が最終年となる現中期計画の進捗状況を点検・評価し、次期中期計画を策定します。
- ②事業の安定運営のため喫緊の課題である職員の確保について、各事業所、各部署の必要人員をできるだけ速やかに確保します。
- ③令和6年度の医療と福祉の報酬ダブル改定を見据え、情報を収集しながら、事業運営への影響を把

握し、対応をはかります。

### 1. 事業運営・展開

- (1) 現中期計画に沿った事業の実施
  - ・現中期計画の点検・評価とともに、令和6年からの次期・新中期計画の策定をすすめます。
- (2) 地域における公益的な取り組み
  - ・重症心身障害児者・医療ケア児等支援センターを滋賀県から受託開設し、相談窓口、情報提供、研修事業、関係機関との連絡調整等の業務を行うことで、県内に在住する重症心身障害児者、医ケア児等の家族、関係機関、支援者のバックアップを行います。
  - ・2年目を迎える、滋賀県委託事業の医療的ケア児者対応事業所開設促進事業について、新規開設した事業所と今後開設する事業所のフォローを行うとともに引き続き病院等への新規開設への働きかけを実施します。また、滋賀県の重症児者および医療的ケア児等の実態調査を行います。
- (3) 社会への発信力の強化
  - ・令和5年6月2日の創立記念日に合わせて創立60周年記念講演を開催します。また令和5年10月に創立60周年記念冊子を発行するとともに、12月に開催するびわこ学園実践研究報告会に創立60周年記念シンポジウムを行います。
- (4) 滋賀県への要望
  - ・滋賀県と定期的に協議を行い、県内の重症児者、医療的ケア児者の支援の充実のため、必要な要望を行います。

### 2. 組織運営・管理

- (1) 職員の安定的な確保
  - ・看護職員については、働き方が多様化する中、「なりたい看護師になれる職場」としてびわこ学園の看護の特徴を明確にし、魅力を伝えるホームページや説明会の工夫等の確保対策を実行します。
  - ・生活支援職員については、引き続き高校生の採

用活動を行うとともに、新たに外国人の雇用に向け、必要な具体的手続きに着手し採用活動に繋がります。また、求人の特化した新たなホームページを導入してびわこ学園の魅力を広く発信し、新卒新人および社会人の求人を強化します。加えて、増えつつあるインターンシップの受け入れを強化し、令和6年度の新卒新人の採用活動につなげます。

- ・医療部については、重度重症化に対応する体制の安定化、強化に向けて、引き続き医師および薬剤師の安定確保の対策を講じます。

## (2) 人財の定着と育成

- ・看護職員は、現任教育では、自分自身を認識し自分の価値観を大切にするとともに、他者を意識した倫理観や道徳性を磨くことができるよう研修を実施し、仕事へのモチベーション向上を図ります。
- ・生活支援部においては、新たに教育担当を配置し、課長、係長と連携して現場研修の強化や個々の職員のフォローを担い、支援職員の育成、定着を図ります。
- ・滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターの受託に伴い、相談支援専門員を増員し、合わせて相談員の育成体制の整備を図ります。
- ・リハビリスタッフについて、入所と地域の事業所の一体的な育成体制について検討を進めます。

## (3) 働きやすい職場環境への取り組み

- ・自身の行動を真摯に振り返り、職員が互いに尊重し合えるような倫理観の高い職場風土の醸成を目指し、研修を継続的に設定します。
- ・個々の職員の多様性を尊重した働きやすい職場、働きたい職場づくりに向けて、引き続き次世代育成支援対策の行動計画に取り組むとともに、女性活躍推進に取り組んでいる認定事業所、「えるぼし認定」を取得し、女性活躍推進の新たな目標設定に沿った行動計画に取り組めます。

## (4) 内部管理体制の強化

- ・法令および法人諸規定等の順守  
事業の提案・協議・決裁の一連の流れを再確認し、決裁規程に基づいた適正な処理を行います。

## 3. 経営・財政

### (1) 適正な予算管理と執行管理

- ・法人事務局と各施設で月次データの共有化を図り財政状況を把握するとともに、財政状況およ

び予算の執行状況について、適宜、経営会議、理事会、評議員会等に報告します。

### (2) 財政基盤の強化

- ・中期計画の最終年度として最終積立額目標を達成すべく今年度の積立金の確保に注力します。

## II. びわこ学園医療福祉センター草津

### <重点項目>

#### ①認可病床126床の安定運用と地域支援機能を含めたベッド活用めざします。

「障害者施設等入院基本料7：1」基準の安定維持をしていきます。

#### ②今後の医療機能、入所支援、地域支援のあり方、および専門職がよりよく生かせるためのびわこ学園の機能・役割を検討していきます。

### 具体的手立て

- ・「地域連携室」を生かし、地域支援に有効なベッド運用をめざしてまいります。関係会議への参画と共に、関係機関へのアウトリーチ・リサーチを行います。

## 1. 人権への配慮と対策の充実

### (1) 人権への配慮

- ・「当事者視点」で個別プログラムを点検し、本人理解を深め、その人らしさを大切にしたい関わりができていくことをめざします。当事者、家族の体験を聴く研修会を実施します。

### (2) 虐待防止計画に基づき組織としての取り組みを実施してまいります。

- ・法制度変革の理解と対応。各部署での研修と合わせ動画視聴を行い、全体での理解を深めます。

## 2. 医療安全・事故防止対策の充実

### (1) 医療安全対策の推進

- ・事故を未然に防ぐために「フルプルーフとフェイルセーフ」を活用・手順を検討し、具体的手立てをたててまいります。

## 3. 入所利用者への取り組みの充実

### (1) 重度重症化への対応力を高めることをふまえ、「障害者施設等入院基本料7対1」基準を活かしてまいります。

- ・病棟ごとの重症度の比率や医療的ケアの状況を調査・整理し、看護・生活の質向上を行います。

### (2) 「栄養サポートチーム加算」を取得し、専門チームによる栄養評価と栄養サポートを行います。



- ・専門研修を受けた栄養・薬剤・看護および医療の専任・専門職が病棟ラウンドを行い、入所者の栄養に関する課題を具体的にとらえ、チームとして対応していきます。

#### (3) 暮らしの充実

- ・「人生の最終段階」での生き方、医療選択について、モデルケースにおいてカンファレンスを持ちます。
- ・ライフサイクルに応じた活動を多職種で実施し、活動事例集をつくとともに外部へ発信していきます。

### 4. 地域支援の充実

- (1) 「地域連携室」を設置し、その機能充実を図ります。
  - ・地域連携室の設置と機能拡充にむけた業務分掌を具体化します。(外来、短期・有目的入所、NICU後方支援・医療入院など地域支援機能の有効活用を目指します) その機能を地域にむけ広報・周知していきます。
- (2) 外来機能の充実
  - ・センター草津外来看護相談(診断書作成などに関するサポート相談)の設置を進めます。
- (3) 専門チームの地域支援
  - ・地域支援としての「料理教室」を充実していきます。
- (4) 地域医療、福祉・教育機関とのネットワーク
  - ・県より「小児在宅医療体制整備事業」を受託し、県内の関係行政・医療機関と連携した在宅医療にかかる仕組みづくりや、重症児者医療を担う人材育成を行います。

### 5. 職員の定着と育成

- (1) アサーション(相手を尊重しつつ自分の意見を伝えるコミュニケーション方法)に基づき自己表現できる職場環境を目指します。  
ハラスメント行為を起ささない、受けないためのメンタルサポートや研修を行います。

#### (2) ノーリフトケアの推進

- ・「抱え上げない介護」推進のための職員研修を実施し、「安全介護」意識の向上と職員定着に生かします。

### 6. 防災・防犯対策の充実

- (1) 電源や水喪失にかかる災害時想定で初期対応を具体化します。
- (2) BCPを点検し、実効性のある内容へ更新していきます。

- ・感染症対応を含めた、総合的なリスク管理と「災害対策」を整備します。

### 7. その他

#### (1) 「いのち」等への共通理解

- ・支援理念の確認と共有をめざし、「糸賀一雄・岡崎英彦思想」を現場に生かす研修を継続します。
- ・「いのち」について多面的な視点で話し合い、利用者が「よりよく生きる」療育実践を紡ぎます。

#### (2) 診療報酬にかかる施設基準の定時点検と新規項目の算定をめざします。

- ・短期入所中の「日中活動加算」の活用を考えます。
- ・「データ提出加算」の算定と安定維持をめざします。

## Ⅲ. びわこ学園医療福祉センター野洲

### <重点項目>

- ①第3病棟の重度化対策として改修等環境整備を進めるため、浴室改修工事の実施・居室の増改築に向けた協議を行います。具体的には、病棟職員らで構成する検討チームによる協議を重ね、年度内に基本設計の完成を目指します。
- ②地域支援ベッドを利用した観察や検査、治療等のための有目的入院を積極的に受け入れ、より機能的な地域支援ベッドの活用を進めます。  
数値目標を年間5ケースとし、地域支援会議において、受け止めの流れや対象、評価等の検証を行います。

### 1. 人権への配慮と対策の充実

- ・年間計画に基づいた虐待防止対策・権利擁護研修を実施します。

#### (1) 研修学習会を実施する。今年度同様、一定期間の配信と小集団の学習スタイルで実施します。

- (2) 自己チェックリストの活用とデータ分析から見る課題へ取り組みます。
- (3) ロールプレイ研修を継続します。

### 2. 医療安全・事故防止対策の充実

#### (1) 骨折事故をゼロにします。

- ・重症児者は骨折のリスクが高いことを知り、介護上の注意について学習会を実施します。

#### (2) 誤薬をゼロにします。

- ・薬を取り扱う職員全員が、個々に重点項目を決めて実践します。

### 3. 入所利用者への取り組みの充実

- ・呼吸サポートチームの活動を継続し、高齢化と重症化に対応した呼吸管理、排痰補助および誤嚥性肺炎予防等の医療・支援を充実させます。
- ・骨密度測定装置を導入し、骨粗鬆症や病的骨折予防のための包括的な診療・支援体制を充実させます。
- ・低レベルレーザー照射器を導入し、より効率的なリハビリテーションを図ります。
- ・第2病棟の重度化に対し、日々の職員配置やケアの内容を再検討し、役割分担を再構築します。
- ・リハビリテーション課スタッフを増員し、重度重症化による個別ニーズと小集団化による余暇支援の充実を図ります。また、地域支援として成人期の生活相談、摂食相談の充実を図ります。

### 4. 地域支援の充実

- ・短期入所中の日中活動支援加算取得に向けた体制検討を進めます。
- ・新規の短期契約者・利用再開者の5人増を目標に、事前診療及び体験利用を進めます。
- ・心理相談課を配置し、地域の発達障害児者への医療支援の強化を進めます。

### 5. 職員の定着と育成

- ・活発な研究活動（学会・論文報告）を発信し、びわこ学園の理念に共感する人材を確保し育成します。
- ・福祉実習生の積極的な受け入れ、ホームページの活用継続等を行い、職員確保へつなげていきます。
- ・学会発表・研修参加を積極的に行います。
- ・支援教育担当を新たに配置し、教育育成体制を構築し、職員の定着を図ります。
- ・抱え上げない介護推進事業所の認定を目指し、研修体制を整えます。

### 6. 防災（防犯）対策の充実

- ・令和6年度のBCP（事業継続計画）作成義務化にむけて、今あるBCPを実効性のある内容に修正し、訓練や研修の義務化へ対応します。

### 7. その他

- ・医師数が充足した場合は、第3病棟の病院基準を「特定疾患病棟入院基本料2」への変更を目指します。

## IV. 知的障害児者地域生活支援センター

### <重点項目>

- ①ひまわりはうすの事業について、多機能型事業（生活介護・自立訓練）等を見直し、大津市における重症心身障害・医療的ケア児者のニーズを踏まえた事業のあり方について、障害福祉課、やまびこ総合支援センターと協議を進めます。
- ②大津センターの新中期計画（5か年計画）について、「おおつ障害者プラン」の策定期間と重なることから、障害福祉課・やまびこ総合支援センターと協議の上、作成を行います。

### 1. 事業運営・展開

#### (1) さくらはうす（通所課）

- ・今後の医療的ケアが必要な方及び強度行動障害を呈する方の利用を想定し、学校と連携してアセスメントを進めます。
- ・職員育成の取り組みとして、キャリアレベルに応じた育成プログラムを作成し研修等を月に2回程度行います。
- ・看護師の組織体制の強化を図ります。

#### (2) ひまわりはうす（支援課）

- ・重点項目①について、事業に必要な要件や体制整備について準備を進めます。
- ・訪問型生活介護モデルの事例についての実践をまとめ報告します。

#### (3) 生活支援センター（相談課）

- ・医療的ケアの方や行動障害を呈する方を中心に計画相談の契約者数を増やすと共にアセスメントの強化を図ります。目標は2023年度460件、2024年度480件の契約者数を目指します。
- ・地域生活支援拠点事業所としてコーディネーターを配置して緊急時のサービス調整の対応を円滑に行うための体制整備を行います。
- ・大津市（障害福祉課）から「基幹相談調整センター」を受託し調整業務を行います。
- ・滋賀県ネットワークアドバイザー事業の業務である施設入所者の地域移行の検討を他法人と連携して実施します。
- ・セラピストや心理職の業務が地域ニーズに対して継続一貫して対応できる体制の検討を行います。

### 2. 組織運営・管理

- (1) 作成したBCP（事業継続計画）に基づく、

職員対象の研修と訓練を計画し実施します。  
また、利用者・家族への説明を行う機会を設けます。

- (2) 「抱え上げない介護（ノーリフトケア）」の取り組みを進め、外部向け研修を実施します。
- (3) 障害福祉の制度や報酬改定の動向など理解を深めるための学習を進めます。
- (4) 次世代のリーダー育成にむけて、所内での研修会講師などの役割を担い、伝える力をつけられるようにします。

## V. びわこ学園障害者支援センター

### <重点項目>

#### ①重い障害のある方を対象とした質の高い相談支援事業の拡充

- ・重症心身障害および医療的ケアのある方やご家族が望む暮らしを実現するために必要な支援体制づくりを行い、医療的ケア児等支援センターの運営に協力します。
- ・てくてく：計画的に契約手続きを行い、基幹調整センターとの連携を図ります。
- ・びわりん：草津市ケースの計画相談を受けることで、地域の状況や資源の把握に努め、湖南圏域にある事業所との連携を図ります。

#### ②日中活動としてのサービスの質の向上を図る

- ・社会参加の拠点として、様々な経験・体験の場を設定し、一人ひとりの意思や選り好みも反映された実践と社会とのつながりを支える日中活動の場を目指します。（生活介護）

※選り好み＝意思決定において、個人が選択対象に対して持つ好みを表す。

- ・「ゆさぶりーひきだしー確かめ合う」という流れを基本におき、素材や活動を通して、利用者の生き生きとした姿や情動的交流の形を引き出すことのできる実践を企画し、事例検討会を重ねます。（リハビリや心理等による助言も活用します）

#### ③ICT技術の活用により働きやすい環境づくりと生産性の向上を目指す

- ・前年度実施した業務管理システムの導入に向けたプレゼン・ヒアリングをもとに、今年度はデモソフトで操作性等を確認し総合的に判断します。（対象:生活介護5か所、グループホーム2か所）

## 1. 事業運営・展開

### (1) グループホーム

安定した運営を継続し、実践を広く共有する。

- ・制度をよく理解し、加算要件を維持します。そして入居者の生活を支える職員に対して、職場内研修（OJT）と丁寧なコミュニケーションにより定着と育成を図ります。また、他法人で運営するホームとの意見交換や研修の機会を設けます。

### (2) 訪問介護

- ・事業に携わる職員とともに、現状を把握し、適宜取り組み内容の見直しを行います。その中で、仕事の意義や今後の体制について協議します。

### (3) 児童発達・放課後等デイサービス

事業方針に係る協議をすすめる。

- ・放課後等デイサービスを週3日から4日開設へ増やし、成長する子どもや家族のニーズへ対応します。そして、次年度の報酬改定等をふまえ、定員や規模等の協議をはじめます。

## 2. 組織運営・管理

### (1) 適切な職員配置を行い、現場とともに働きやすい職場環境づくりを目指す

- ・抱え上げない介護研修の実施によるスキルアップ、看護ラダー教育の継続、三福祉士の資格取得奨励、法人内外での実践報告や研修講師としての派遣等を行います。

### (2) 権利擁護に関する研修の実施

- ・テーマ：「意思決定支援」「ピアサポート」

### (3) 事業計画の進捗管理

- ・各課でのオンラインを活用した定期的な会議や研修、情報共有により、事業内容の点検および共通する課題解決に努めます。（全課対象）

## 3. 経営・財政

### (1) BCPの更新・策定

- ・感染症や災害に向けた事前対策（事業継続計画）を作成します。

### (2) 大規模修繕計画の策定

- ・大規模修繕計画の策定に基づいて、関係市への説明と財源の確保、補助の依頼を行います。



# 令和5年度 社会福祉法人びわこ学園 資金収支予算書

拠点区分	サービス区分	拠点区分	サービス区分
法人本部	本部		
医療福祉センター草津	医療福祉センター草津 重症心身障害児者施設 医療福祉センター草津短期入所	障害者支援センター	特定相談支援びわりん、てくてく 訪問介護ステーション、 共同生活援助(ともの、えまい) 生活介護(えがお、さんさん、たいよう、かなえ、 ピアーズ)、多機能型事業所ちよこらんど
医療福祉センター野洲	医療福祉センター野洲 重症心身障害児者施設 医療福祉センター野洲短期入所	医ケア児等支援センター 拠点区分(今年度新設)	重症児者医ケア児等支援センター事業
		訪問看護ステーション ちよこれと	訪問看護ステーション
知的障害児者地域生活 支援センター	生活介護さくらはうす、多機能型ひまわりはうす、 生活支援、地域生活支援	長浜診療所	長浜診療所

(単位：千円)

勘定科目	法人全体	法人本部拠点区分	医療福祉センター 草津拠点区分	医療福祉センター 野洲拠点区分	知的障害児者地域生活 支援センター 拠点区分	障害者支援センター 拠点区分	医ケア児等支援センター 拠点区分	訪問看護ステーション ちよこれと拠点区分	長浜診療所 拠点区分	
	予算額	予算額	予算額	予算額	予算額	予算額	予算額	予算額	予算額	
事業活動による収支	収入									
	児童福祉事業収入	13,238		8,796	4,442					
	障害福祉サービス等事業収入	2,398,551	5,084	621,470	659,840	365,543	723,918	22,696		
	医療事業収入	2,567,511		1,286,458	1,183,655			86,268	11,130	
	経常経費寄附金収入	2,570	300	1,370	900					
	受取利息配当金収入	1,528	5	450	1,073					
	その他の収入	20,787	1,600	10,787	7,600	300	200		300	
	事業活動収入計(1)	5,004,185	6,989	1,929,331	1,857,510	365,843	724,118	22,696	86,268	11,430
	支出									
	人件費支出	3,594,549	90,674	1,274,210	1,224,590	329,644	576,950	19,326	66,555	12,600
事業費支出	582,805		297,753	225,160	8,406	49,681	96	959	750	
事務費支出	517,954	34,322	178,726	190,015	23,318	77,928	2,710	7,356	3,579	
支払利息支出	321			321						
その他の支出	0									
事業活動支出計(2)	4,695,629	124,996	1,750,689	1,640,086	361,368	704,559	22,132	74,870	16,929	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	308,556	-118,007	178,642	217,424	4,475	19,559	564	11,398	-5,499	
施設整備等による収支	収入									
	施設整備等補助金収入	0								
	施設整備等寄附金収入	0								
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	0	0	0	0	0	
	支出									
	設備資金借入金元金償還支出	22,500			22,500					
固定資産取得支出	152,183	1,700	52,681	90,202	1,000	6,150		450		
ファイナンス・リース債務の返済支出	4,916		2,150			2,766				
施設整備等支出計(5)	179,599	1,700	54,831	112,702	1,000	8,916	0	450		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-179,599	-1,700	-54,831	-112,702	-1,000	-8,916	0	0	-450	
その他の活動による収支	収入									
	積立資産取崩収入	0								
	拠点区分間長期貸付金回収収入	2,160	2,160							
	事業区分間繰入金収入	13,465	5,000				3,465		5,000	
	拠点区分間繰入金収入	184,314	152,757				31,557			
	サービス区分間繰入金収入	34,665		23,891	5,144		5,630			
	その他の活動収入計(7)	234,604	159,917	23,891	5,144	0	40,652	0	5,000	
	支出									
	長期貸付金支出	11,000		5,000	6,000					
	積立資産支出	102,679	943	51,968	37,000	3,475	8,093	564	636	
拠点区分間長期借入金返済支出	2,160					2,160				
事業区分間繰入金支出	13,465	5,000						8,465		
拠点区分間繰入金支出	184,314	24,757	66,500	60,300		32,757				
サービス区分間繰入金支出	34,665		23,891	5,144		5,630				
その他の活動支出計(8)	348,283	30,700	147,359	108,444	3,475	48,640	564	9,101	0	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-113,679	129,217	-123,468	-103,300	-3,475	-7,988	-564	-9,101	5,000	
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	15,278	9,510	343	1,422	0	2,655	0	2,297	-949	
前期末支払資金残高(11)	1,282,634	163,884	438,227	422,762	0	146,562	0	106,595	4,604	
当期末支払資金残高(10)+(11)	1,297,912	173,394	438,570	424,184	0	149,217	0	108,892	3,655	

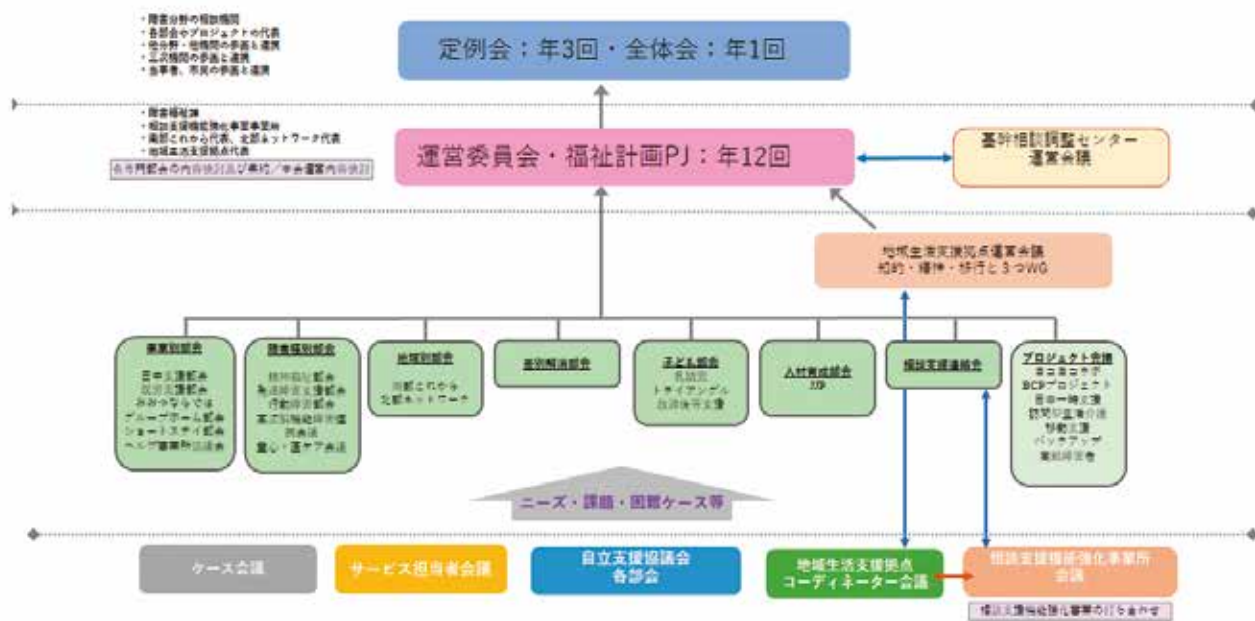
# 『福祉の魅力発見プロジェクト』の紹介

知的障害児者地域生活支援センター・生活支援センター 相談課長 松岡 啓太  
(大津市自立支援協議会事務局)

全国の県や市町に設置されている障害者自立支援協議会は、平成7年に滋賀県の甲賀圏域に設置された「障害児・者サービス調整会議」がモデルとなっています。大津市では平成12年から地域の障害福祉に関わる様々な課題の共有と解決にむけた協議の場として「大津市障害者サービス調整会議」を設置していました。平成18年10月、障害者自立支援法によって市町村に障害者自立支援協議会の設置が制定されたのを機会に、その名称を「大津市障害者自立支援協議会」と改称して、協議会の事務局を生活支援センターが委託を受けることになりました。

大津市障害者自立支援協議会（以下、協議会と略します。）は「あるサービスは調整する、無いサービスは作る」をスローガンに一人一人から集約された福祉・保険・医療等に関わる諸課題を関係機関で共有を行い、課題解決に向けた調整ならびに、新たな社会資源の創造支援システムの構築、各種サービスの総合的な調整・連携強化による各施策の効果的な実施・推進を日々行っています。

【2023年度 大津市障害者自立支援協議会組織図】



今回は協議会の人材育成の取り組みの一つとして2021年度から始めた福祉の魅力発信プロジェクトの紹介をさせていただきます。

この取り組みは協議会の各会議で障害福祉の担い手不足の話題が頻回に出ていたことに対するアプローチとして企画しました。プロジェクトでは、障害福祉の仕事に対する学生のイメージ調査をまず行いました。

障害福祉のしごとが、福祉学生・非福祉学生から実際にどのようなイメージをもたれているのか就職に対してどんな意識を持っているかを把握するため、



事業所向け福祉の魅力に関する報告会資料（令和3年10月）

アンケート調査をおこないました。県内だけではなく、全国の学生から100件を超える回答がありました。人材確保が厳しいと思われると思うのですが、かなりの学生が、福祉を選択肢にもっている人も多かったです。「福祉の仕事には資格が必要」というイメージがあり、仕事がきついという固定化されたイメージもある。そして、約半数が「福祉職の給与等の待遇が極端に悪いと思っている」「キャリアアップのイメージもっていない」など、情報が正しく伝わっていないことがわかりました。



### 〈インタビュー〉他の人にもできて、私にしかできない

049

公開している当センター職員の記事

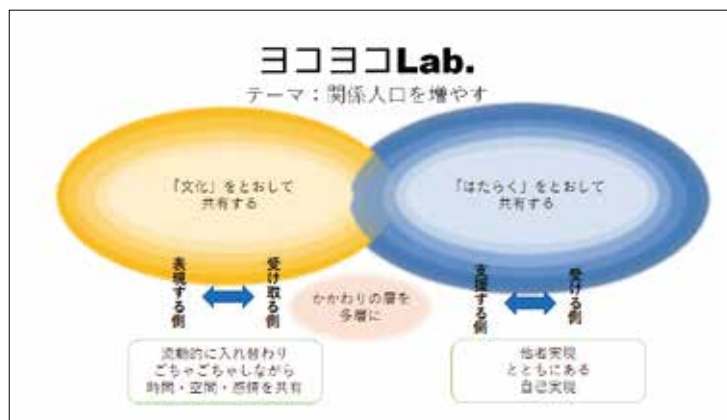
また、オンラインのメディアは関心のある人は見つけてくれるが、関心がない人には届かないので、「たまたま」出会い頭に会うような人たちに手に取ってもらうために、冊子も作成しました。

そして、今年度から更なる取り組みとして、「文化・芸術を通して関係人口を増やす」という取り組みもして行きたいと考えています。学生だけでなく、地域の様々な人たちの距離感を多様な関わりの層で広げていきたいと考えています。「障害者との共生は大切ですね。でも私の近くにはそういう人はいないので、あまり接点はないです。」という距離から、「私のお気に入りの手ぬぐいは障害のある人が作った物だった。」「カフェでランチをしていたら、ギャラリーの絵がとても良かった。作家さんが障害があるらしい。」「たまたまマルシェに参加したら手話歌がとても印象に残った。」など、日常の中に「関係人口を」ヨコヘヨコへと広げていきたいです。

続いて、魅力発信としてのヨコヨコというメディア「note」というメディアプラットフォームを利用し、福祉ではたらく人へのインタビュー等をととした魅力発信「ヨコヨコ」をはじめました。大津市内の障害福祉現場で働く人たちのインタビューを通して魅力発信に取り組んでいます。コンセプトとしては、「障害福祉の関係人口を増やす」ということを意識しています。「就職」という人生の大きな決断をいきなり迫るのはかなりハードルが高いため、ダイバーシティ&インクルージョンということに関心を持っている学生に「障害福祉」「障害者」を意識してもらい「関係人口」になってもらうことから始めることにしました。



学生向けに作成した「ヨコヨコ」の冊子



今後の取り組みのイメージ図

このプロジェクトでは福祉に関心を高めたり、福祉へのかかわりを増やしたり、福祉へのいろんなかかわりを拡大していく。そんな未来・社会づくりに取り組むことを大切にしたいと思っています。

noteの「ヨコヨコ」はこちらのQRコードからご覧いただけます。





# ご協力ありがとうございます

(令和4年12月～令和5年3月) (敬称略)

皆様の心温まるご支援に感謝いたします。

## 寄付金

(寄付金についてはいただいた方の御名前または団体名のみご報告させていただきます。)

### 法人

三輪 喙／寺本喜宥／内田克己／遠藤弘子／今宿 功／匿名

### びわこ学園医療福祉センター草津

松井光子成年後見人 松井与三郎／草津市共同募金委員会・草津市社会福祉協議会／三好佑希

### びわこ学園医療福祉センター野洲

優友会／株式会社メディック／澤田喜勝

### 知的障害児者地域生活支援センター

宮本政和／大津市社会福祉協議会／平野学区社会福祉協議会／優友会

## 物品の寄付

### びわこ学園医療福祉センター草津

食 品・・・石塚義之・千恵／二宮博之／社会福祉法人共生シンフォニー／サポートハウスココロネ住吉／松井与三郎

その他・・・地域包括ステーション 森のお家／公益財団法人河本文教福祉振興会 理事長 山田清夫／小寺いつ子／さいわい

### びわこ学園医療福祉センター野洲

食 品・・・みくも動物病院 井上千恵子／小島弘之／二宮博之・聡子／タキイ種苗株式会社 研究農場／澤田喜勝2件／吉川清美／金谷克子／松枝道一

日用品・・・種池悦子／野洲更生保護女性会／野洲市赤十字奉仕団／今井和子

その他・・・野洲更生保護女性会／小西まゆみ／森 幸雄／エースプロ／MAHANA Tiare Ori Tahiti 坂田彩子／芦田洋三

### びわこ学園障害者支援センター

食 品・・・織田信明／辻川信義／督永勝次／小竹芳治

日用品・・・山口敬子

その他・・・古田かおり

## ボランティアのみなさん

### びわこ学園医療福祉センター草津

みつばち会／天理教江西支部／みみすまバンド／ことこと／キラリ☆ウインドポップス／尾浦与子／松永朋子／西川千晴／奥田多恵／加藤美由紀／田中智子／井上薫代／向吉昌代／加藤常満／御子芝貴美子／井ノ口教政／本城正子

### びわこ学園医療福祉センター野洲

近江金田教会／K-Iクラブ／更生保護女性会／天理教婦人会／さえずり／together／ニレトミ会／野洲赤十字奉仕団／レイカ野洲／レイカディア大学園芸科43期／レイカディア大学園芸科44期／レイカディア大学園芸科OB／オムロン野洲事業所／安藤真紀／磯 春樹／今里哲也／上田順子／加藤常満／川端しづ子／左部真千恵／辰市由佳／田中規久子／東郷 勇／中富恵子／林 政子／藤山庸子／細川久子／堀田千景／森 紳司／山本一代

### びわこ学園障害者支援センター

笠縫東学区更生保護女性会 卯田美千代／GINLALA／玉津学区社会福祉協議会／ハートフルガーデナーかすみ草 門間正憲

## その他の協力団体・会員

### びわこ学園後援会

びわこ学園実践報告会・各施設等への事業補助